

◆ 活躍する卒業生 ◆

英語・英語圏文化コース 教員
北脇 実千代

本学は卒業後すぐに就職する人もいれば、四年制大学三年次編入後や海外留学後に就職する人もいます。今回は後者の卒業生 3 名の近況報告をお届けします。



熱海 有紀さん

カリタスを語ることは、いわば私の青春を語ることであります。それは必ずしも後悔のない学生生活だったとは言えませんが、ともかくも私にとってはかけがえのない青春の日でした。こうしてカリタスについて綴りながら、もうとっくに失われたカリタスでの学生時代を振り返ってみました。

私が初めてカリタスを訪れたのは、入学試験の数日前に下見をしたときです。赤やオレンジの美しい煉瓦の建物、その背後に広がる庭にゆったりと静かに生い茂る木々が印象的でした。私たちはそうした豊かな自然に見守られながら、キリスト教の慎み深い精神を共有し、仲間と語学勉強に取り組む、将来について互いに意見したのです。

私は、語学への茫漠とした興味からカリタスへ入学したのですが、その後は先生方が情熱をもって研究されている専門分野の講義に感銘を受け、「学問」のおもしろさを深く感じる毎日でした。先生方にお力を貸していただき、無事に大学へ編入した後も、カリタス時代、久山学長先生に影響を受け勉強し始めた、キリスト教、イスラム教文化について引き続き研究し、『9世紀から12世紀のシチリア島におけるアラブ・キリスト教文化交流史』というテーマで卒業論文を書き上げることができました。

大学を卒業し2年を経た現在は、不動産会社の海外事業部に所属し、カリタスで鍛え上げた英語力を生かして日々の仕事に励んでいます。就職を進めるにあたっては、大学の就職課にはお世話にならず、カリタスの学生時に受講した就職講座の資料のみを参考に活動し、早々と内定をいただくことができました。

改めて申し上げるまでもなく、常に私の人生の道標となり心の支えとなったのは、カリタスで過ごしたあの幸福な時間でした。そして私のような未熟な人間に対して実に丁寧なご指導をくださった久山学長先生をはじめとするカリタスの先生方のお力添えがあったからこそ、現在の私が在るのです。先生方には尊敬というだけでは足りない、お一人お一人の人間性に魅せられた気持ちです。これからもカリタス時代の自分を忘れずに仕事に勉学に邁進していきます。



水留 由美子さん

カリタス女子短期大学卒業後、清泉女子大学文学部英語英文学科の3年次に編入学し、英語学、児童文学の他、日本語教員資格取得の勉強や卒業論文の執筆に励みました。

昨年、数年ぶりに友人3人とカリタスのあざみ祭に行き、久しぶりに先生方にお会いしました。短大を卒業して今年で6年目になりますが、今でも卒業生の顔と名前を覚えていてくださり、とても嬉しく思いました。先生と学生との距離が近く、家族のような温かさを実

感しました。カリタスの学食も以前と変わらず、大変美味しくいただきました。カリタスで多くの人々と出会い、英語以外に秘書士やビジネス実務士の資格取得にも挑戦するなど興味のあることに邁進できた2年間は私にとって思い出深い宝物です。

学生時代と比べ、現在の仕事は給与関係なので数字と向き合う毎日です。絶対に間違えられない厳しい仕事ですが、毎月無事に給与の支給を終えると達成感を感じています。職場では、常に仕事を予定通りに進めることが求められ

ます。目標を持ち、様々なことに挑戦し続けること、「為せば成る」、「継続は力なり」の精神で努力することをカリタスで学びました。

最後に後輩の皆さんへ。丁寧で温かいご指導を受けることができるカリタスの恵まれた環境を最大限活かして、充実した素晴らしい2年間を過ごしてください。

◆.....◆

若林 香里さん

I believe that school should be a place where students can acquire new knowledge, prepare for entering society, and find themselves. For me, Caritas Junior College was such a place and gave me a great chance to develop myself beyond what I had expected.

Through Caritas Junior College, I got to study abroad in Wales in the U.K. and in Kansas in the U.S.A. The time I spent abroad was unforgettable. However, this exciting story begins with Caritas.

Caritas offers a short-term studying-abroad program so I decided to participate in the summer trip to Wales. While staying in Wales for five weeks, I experienced the excitement of introducing Japanese culture and also learning other cultures. I just wanted many people to know about Japan. After I came back from Wales, I was very fascinated with other cultures, nationalities, international politics and economics so I read many books related to these topics and took the international relations class and seminar at Caritas. Through these, I developed an idea of a future where I could be a bridge between Japan and the rest of the world.

Later that year, I was awarded a short-term study abroad scholarship and studied at Johnson County Community College in Kansas which had a global relationship with Caritas. Last year, I graduated from the University of Kansas with an economics major and a mathematics minor. These five years have definitely been an asset in my life.

Now I work for a world-wide accounting firm. My position is to help the U.S. firms located in Japan with accounting matters. At work, I hold conference calls with these firms and the U.S. office and communicate with international experts in English. So I am definitely utilizing the skills, knowledge and experience I obtained at school.

Learning enriches who you are and what you do. Be ambitious! Something special might happen to you like it happened to me.

◆ 英米文学の故郷 ～第26回 ロンドン その6～ ◆

英語・英語圏文化コース 教員
伊藤 知子



マイケル・ボンド (Michael Bond, 1926-) は、イギリス人で、パディントンシリーズの作家として知られています。彼は1926年にバークシャー州 (Berkshire) のニューベリー (Newbery) に生まれました。1945年、従軍中に短編を書き始めます。その後は、BBCにてカメラマンとして働きながら、多くの短編を書いた後、1958年に『くまのパディントン』(A Bear Called Paddington) を発表します。パディントンシリーズやドラマの脚本が好評だったので、1965年にはBBCを退職して、作家業に専念しています。

『くまのパディントン』は、ペルーからやって来て、ロンドンのパディントン駅でブラウン一家に見つけられたクマを主人公にしています。これは、

1957年にボンドがロンドンで妻へのクリスマスの贈り物として買ったぬいぐるみのクマにちなんで書いたものです。当時、夫妻がパディントン駅の近くに住んでいたため、パディントンと名づけられました。パディントン駅は、ロンドン北西部に位置する商業地区、パディントン地区にあるナショナル・レールとロンドン地下鉄の鉄道駅です。パディントンを主人公にしたシリーズは絵本も含めて70冊以上が発表され、20カ国以上で翻訳されています。ボンドはパディントンシリーズの他に、『ねずみのサーズデイ』(Here Comes Thursday, 1966) に始まるサーズデイシリーズも書いています。彼は1977年には児童文学への貢献が認められ、大英帝国勲章 (OBE, Order of the British Empire) を受賞しました。現在は、ロンドンに在住しています。

英米文学の故郷、第22回ハートフィールドで扱ったアラン・アレグザンダー・ミルン (Alan Alexander Milne, 1882-1956) による『クマのプーさん』(Winnie-the-Pooh, 1926) は、ぬいぐるみのクマで魔法の森の住人ですが、『くまのパディントン』は、ブラウン一家の一員として人間の世界で生きるクマであるという違いがあります。私がパデ

イントン駅を訪れたのは、2007年1月でした。物語の中では好奇心旺盛で、行動的なパディントンですが、銅像となったパディントンは、ターミナル駅で繰り返される人々の人間模様を静かに温かい目で見守っているように思えました。



マイケル・ボンド



くまのパディントンの銅像

◆ カリタスの英語 ◆

このコーナーでは、カリタスの英語・英語圏文化コースを代表する英語の授業を紹介します。第2回は、「児童英語教育研究」です。

英語・英語圏文化コース 教員
前田隆子



2年次に履修できる「児童英語教育研究」という授業では、前期は小学校における英語教育導入の背景と現状、海外での実践事例、言語習得論など主に理論面を学び、後期には実践編として、あざみ祭(大学祭)で近所の小学生(低学年)を対象に学生たちが授業を行ないます。“Kids' ABC Room”と名付けたこの英語教室は、近所の方々も楽しみにしてくれる恒例行事となりました。

今年は4人の学生が、「動物」をテーマに50分の授業を展開しました。子供たちは、英語で歌ったり、ゲームをしたり、世界地図を見ながら動物の生息地を確認したりと、とても楽しい時間を過ごしたようです。授業を行なった学生たちは、実際の小学生を前にとても生き生きとすばらしい授業を展開しました。当日の授業内容は、以下の表をご覧ください。

過程	学習内容・活動	できるようになること
Greeting	あいさつ 出席	元気よく、'Here.'と言える。
Song	'BINGO'♪	英語で歌が歌える。
Warming-up	手話とは何？ 英語の手話を体験しよう。	手話でのあいさつ
Lesson 1	【色と動物の名前】 ・ 色:赤、黄、青、緑、茶、紫、白、黒、金 ・ 動物:熊、鳥、アヒル、馬、かえる、猫、犬、羊、金魚	英語で色と動物の名前が言える。
Activity 1	Eric Carle の絵本“Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?”を見ながら、動物を当てる。	(同上)
Activity 2	【動物のカード取り】 先生の英語(色と動物名)をよく聞いて、黒板のマグネットカードから、指示通りの動物を取る	英語で色と動物の名前が聞き取れる。
国際理解教育	【動物探しゲーム】 Lesson 1 で学習した以外の動物の出身国を世界地図上で知る。	皆がよく知っている様々な動物の出身国がわかる。
Song	'BINGO'♪	英語で歌が歌える。
Greeting	あいさつ	元気よく、'Good by!'と言える。

◆ Messages from Students Abroad ◆

英語・英語圏文化コース 教員
パトリシア 保田

This year our scholarship students are studying at our recommended colleges. They have been studying for one semester and here are the messages they have sent.



加藤 早智 ~ Felician College 留学中 ~

I was in the ESL program during the first semester, and my class level was 4. I had a lot of homework everyday and my teachers had me write a research paper and a book report at the end of the semester. On the weekends, I went to New York with my friends and I joined some activities which were arranged by the international office such as watching a basketball game, ice skating, and shopping.

Now, I'm in my second semester and I have four classes which are Essay Writing, Reading Comprehension, Choir and Computer. I study with American students. It is really hard to understand the classes but the instructors are nice and helpful, so I always ask them some questions after the class. I think that taking college classes is a totally different world from taking ESL classes. I will do my best to keep up!



内田 情民 ~ Chichester College 留学中 ~

I have been studying English and Travel and Tourism in England since last September and I'm enjoying the life in England very much. There are students of many different nationalities in school such as European, African, Arabic and Asian. This means you can meet a lot of different people, you can learn real English and real culture here.

Also I'm staying with a host family at the moment and that was a very big challenge for me. At first, I was confused about everything.

However, they are very nice to me and they teach me English culture, accent and interesting things.

Sometimes it seems really hard to understand other cultures, but I feel this is a very important experience in life. Even though everyone is different, we should respect each other and know each other well. I have only a few months left, so I want to learn more and more before I go back to Japan.

Kaleidoscope 第32号はいかがでしたか？ 皆さまのご意見・ご希望・ご質問など、お気づきの点を maeda@caritas.ac.jp までお寄せください。

2010年2月15日発行

発行責任者：前田 隆子

編集協力：東京工科大学

コンピュータサイエンス学部 千葉 要介

カリタス女子短期大学

Caritas Junior College

〒225-0011

横浜市青葉区あざみ野 2-29-1

Tel: 045-901-5133

Fax: 045-901-5066

URL: <http://www.caritas.ac.jp/english/>